

出題 蜚雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

問題【国語】

次の傍線部を漢字にしましょう。

- (1) 料理の**コツ**を教えてください。
- (2) **メリハリ**のある生活
- (3) ラーメンに**ハマる**

豆知識 雑学コラム

「カタカナ表記」の言葉

今日の問題文の「コツ」「メリハリ」、「ハマる」は普段、カタカナで表記されることの多い言葉で、「漢字の表記なんであるの?」と思ってしまう言葉です。しかし、この言葉たちには漢字の表記が存在します。どういった漢字なのか見ていきましょう。

まず、「コツ」と聞くとどんな漢字を

思い浮かべますか? 「豚骨」や「骨髄」のように「骨」という字を「コツ」と読むことがありますね。「骨」は「人の身体を支える大切な部分」ですよ。そこから意味が転じて、「何かをするときの大切なポイント」を「コツ」と呼ぶようになりまし

次に、「メリハリ」はもともと音楽で

つかわれていた言葉です。「メリ」は「減り」と書き、ギターなどの弦を緩めることを意味して、逆に「ハリ」は「張り」と書き、弦を張ることを意味します。弦を正しく緩め、張ることで音の高低や強弱をつけることができますよね。こうして、「音の高低や強弱をつけること」から転じて「物事に強弱をつけること」を表すようになりました。

最後に「ハマる」は「嵌る」と書きます。なぜ、「ハマる」は「嵌る」と漢字で書かないのでしょうか。ももとの「嵌る」の使い方に理由があります。「嵌る」はもともと「穴に落ちて抜けなくなる」という「穴に嵌る」という使い方をしていた。そこから「畏に嵌る」のように騙されて、抜け出せなくなるというような悪いことに使われることが多い漢字です。そのため「嵌る」とみると、悪い

ことになっている印象を与えてしまった。め、いいことにのめりこんでいる場合は「ハマる」のようにカタカナで書くことが多いようです。

「ハマる」と同じように、「コツ」も「骨」と書いてしまうと「人の身体の骨」を連想してしまうため、カタカナで書くようになったと言われています。漢字は一目で意味がわかるという良い点がある反面、複数の意味があるとき、違う意味を連想してしまう危険があります。カタカナの表記はそうした誤解を防ぐための工夫なのですね。

【解答】

- (1) 砵
- (2) メリハリ
- (3) ハマる